

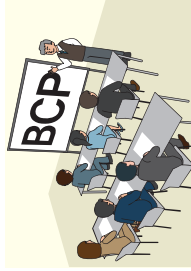
5. 教育・訓練

被害を最小限に抑えるためには、大災害という特別な状況においても、従業員等全員が的確に活動できることが重要です。各自が行動マニュアルやBCP等に基づく役割を認識し、主体的に行動できるように、教育・訓練を継続して実施しましょう。

○ 防災教育

従業員等に対する防災教育は、災害に関する知識の普及だけでなく、行動マニュアルやBCPなどの概要および災害時の役割分担を理解してもらうために実施します。教育の内容には以下のようなものがあります。

- 地震に関する基礎知識(身の守り方を含む)
- 品川区などの被害想定や事業所周辺で予想される被害
- 行動マニュアルやBCPなど各種計画の概要と役割分担 など

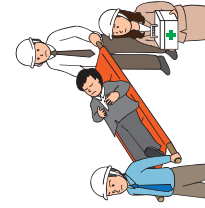


○ 防災訓練

防災教育で修得した知識が、実際に役立つかどうかを防災訓練で試してみよう。防災訓練は、継続して行うことが大切です。主体的に行動できるように訓練を行いましょう。

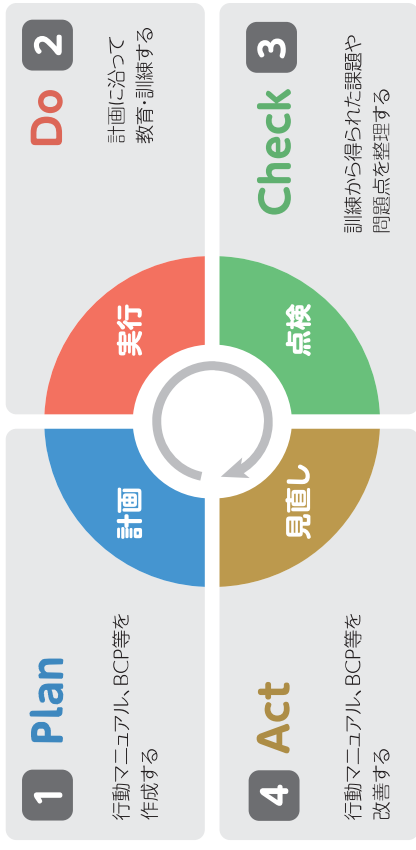
【主な防災訓練の例】

区分	訓練項目	訓練内容
実 動	初期消火訓練	消火器・消火栓の位置確認 消火器・消火栓の取扱い
	避難訓練・帰宅訓練	避難誘導(所要時間の計測等) 参集・帰宅ルートの確認
	救出・救護訓練	救出・救護資器材の操作 AED操作 負傷者搬送
	対策本部設置訓練	役割分担の確認 指示系統の確認
	情報収集・伝達訓練	通信機器の取扱い 安全確認
	事業所間連携訓練	訓練の合同実施
	一時滞在施設開設訓練	施設点検 物資(備蓄品)配布
図 上	ロールプレイング方式	災害シナリオに基づいたシミュレーション
	DIG	地図を使用したイメージトレーニング



○ PDCAサイクル

行動マニュアルやBCPは、一度作ったら終わりではありません。社会状況や経済環境は常に変化しますし、事業所内においても人事異動や重要業務の変化などが考えられます。そのため、行動マニュアルやBCPをより実践的・効果的にするために、定期的に内容を振り返り、必要に応じて見直しを行います。



策定した行動マニュアルやBCPを基に、災害時にどう行動すべきか、どう行動してほしいかを、事業所内で話し合っておきましょう。

東京サラヤ株式会社

協定締結後、「一時滞在施設開放訓練」を実施

東京サラヤ(株)は、平成25年9月に区と一時滞在施設の提供や、避難生活に必要な衛生用品の優先供給に関する協定を締結。帰宅困難者を受け入れる際に必要な「一時滞在施設運営マニュアル」を作成し、検証を兼ねての訓練を実施。訓練には、普段から交流のある旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の方も参加しました。また、訓練の結果を踏まえ、「一時滞在施設運営マニュアル」の見直しを行っています。



～協力協定締結事業所の紹介～①

対策チェック

- BCP等において、教育・訓練を定期的に実施することを定めていますか
- 地域で実施されている訓練に事業所として積極的に参加していますか
- 訓練の実施結果を、きちんと整理し、第三者的な評価をしていますか
- 訓練の評価結果により、BCP等の改善・見直しを行っていますか